

英語を学ぶというより
英語で何を学ぶのか

長崎大学の各学部の最新情報を紹介していく「長崎大学のいま!」。最終回は多文化社会学部です。長崎大学待望の人文社会学系の学部として平成二十六年にスタートを切りました。

佐久間正学部長のお話です。
「多文化社会学部は今年度で二年目、早くも優秀な学生たちが育ちつつあります。」

現代は文化的な背景を異にする人々が交わらなければいけない多文化状況が広がっています。近年、長崎でも日常的に外国人に接することが多いですね。客船で訪れるアジアの観光客は街にあふれ、三菱長崎造船所関連のワーカーとして東欧やロシアからたくさんの方々が来崎して働いています。少子高齢化が進む日本では、外国から労働力を入れなければ立ち行かないヨーロッパではすでにそういう

状況になっていますが、問題も多い。文化的他者とともに働き、生活し、仕事上のパートナーシップやリーダーシップを発揮する人材が、世界中で求められているのです。」

多文化社会学部では、入学試験時に一定レベル以上の英語力が求められ、それを突破して入ってきた学生たちも最初の半年間に英語を集中的に学ぶと聞きました。

「はい、一年次前期はトランジションプログラムで徹底的に鍛えるので学生たちは大変ですが、平成二十六年度は、一年次前期のTOEFL ITP 四八四点が後期で五一五点(いずれも平均)と、確実に力がついていきます。短期の留学が全員必修で、六ヵ月以上の留学が必修であるグローバル社会コースの専門科目はすべて英語での授業ですし、オンライン特別コースはライデン大学への一年間の留学も設定されており、高い英語力は必須です。ただ、英語は入口。海外でのビジネスでは英語が流暢に話せることよりも、人としての品格や教養が重要視されます。そのため、英語学修に止まらず、国際法・国際政治、文化交流(史)、社会学、日本学関係など多彩なカリキュラムを設定しています。」

長崎大学のいま!

多文化社会学学部

文化が異なるなかでも
たじろがない
しなやかな人材を育てたい



佐久間正

多文化社会学部長
さくまただし
長崎大学多文化社会学部教授。一九四九年生まれ。一九七五年東北大学文学部史学科日本思想史学卒業。一九七九年東北大学文学研究科国語国文学部日本思想史学専攻修士課程修了。博士(文学)。一九九六年より一年間エジプト・カイロ大学でも教鞭をとる。二〇一四年より現職。専門は日本思想史。著書に『徳川日本の思想形成と儒教』(へりかん社)などがある。

本年度から、この学部の一年生全員が国際学寮ホルテンシアに入寮し、留学生との共同生活が始まりました。長崎大学としては新しい試みですね。
「そうです。授業とは別の生活の場で多文化状況を受け止めるしくみです。毎日の生活のなかでコミュニケーション能力や適応能力を高め、多文化状況でもたじろがない力がつくことを期待しています。」

大学院構想を念頭に
発信力を高める

大学院構想についてお教えください。
「多文化社会学部では、平成三十一年度四月をめどに大学院の設置を構想しています。一つの柱は日本学を英語で発信できる、逆に世界から日本学の研究者を受け入れられる場を作ろうとい

うものです。また、研究者に期待するのは、多文化状況の、いわば生理現象と病理現象の解析です。病理ともいえる人種差別や異文化排斥はどうして起こるのか。一方で、そういうものを乗り越えて互いの理解を深めながら共に生活して働いている状況があります。特に、うまくいっている事例をしっかりと捉え、これを発展させるにはどうしたらいいかといった方法論を探求します。そのために理論的探求や、さまざまなフィールドワークのできる研究者を増やしていきたい。」

また、これからは領域的国民国家の枠組を超えていくことは大切で、人文系のアカデミアが果たせる役割は大きいのではないのでしょうか。
早くも学部としての紀要も発表。教員も著書を続々と出版するなど、発信力も高まっています。

す。二年目となり、学生の動きも活性化してきましたね。
「国連NPT(核不拡散)再検討会議に派遣されたナガサキ・ユース代表団十二名中、多文化社会学部からは三名が出ました。第一線で活躍する方々の講演会では積極的に質問して議論に参加しています。先日は学生たちが学部紹介ビデオを作成し、高校生に大変好評でした。学生たちは、この学部の特徴を理解して撮影から編集まで自分たちで行いました。先輩が存在しない新しい学部だけに、必要なものは何でも自分たちで立ち上げようという気概があり、実に頼もしいですよ。」

新しい学部ならではの試行錯誤を重ねながら、教員も学生も一体となって成果を出し始めた多文化社会学部。グローバル化が進む世界のなかで活躍できる人材が少しずつ育ちつつあります。



フィールドワークの報告会のような。それぞれの体験を語りながら盛り上がる学生たち。



1年生は全員、この国際学寮ホルテンシアで留学生と1年間の共同生活を行います。